

## 「下請けの団体交渉」権！

庶民力復活には、子会社・下請企業やその労働者の保護が欠かせない。2000年代以降の新自由主義の手法に、元請企業などが圧倒的に優越的な地位を利用して行う下請企業などへ契約料カットを強要することがある。下請企業は正社員の派遣労働者への切り替えなどの人件費圧縮を進め、下請会社・子会社の労働者の大幅な給料減少（30代正社員平均時給約1,800円と、非正社員約1,200円）と婚姻率の格差を招いている。これら労働者の結婚の困難化や消費の減退、少子化、更には先進諸国中最低の労働生産性という現状を打破するためには、「下請の団体交渉」ともいうべき、下請企業・子会社による元請会社等に対する契約料

の団体交渉の推進を通じた行き過ぎたコストカットの阻止が必須である。



## 庶民を守る行き過ぎたISD条項の見直し！

自由貿易協定 (FTA) において、企業と政府との賠償を求める紛争の方法を定めた ISD 条項 (投資家対国家間の紛争解決条項、Investor State Dispute Settlement) が、力の強い多国籍企業に濫用されることにより、条項の本来の趣旨とは反する消費者や一般の諸国民への不当な搾取に繋がっている。



先進諸国の国民とその利益を代表する政治家が団結し、一部巨大多国籍企業やそれと癒着する政治家の ISD 条項を濫用した行き過ぎた利益追求を打破しなければならない。

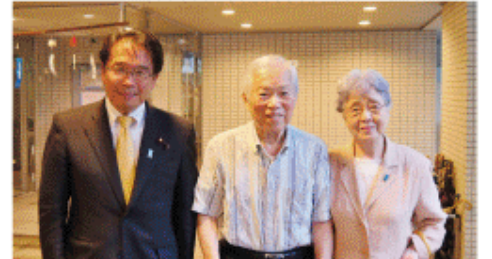
## 強い東京を創る！

東京の政治家として、私もこれまで国土交通副大臣をはじめとする様々な立場から、強い東京を創る動きを強力に推進してきた。国境を越えて人、物、金が移動する今日の経済において、これらが集まるアジアの中心拠点として発展することが発展の礎である。私は、世界の人、物、金が集まる強い東京を創っていく。東京大阪間約60分という山手線一周並の時間にするリニア中央新幹線の建設に財政投融資の支援 (平成28、29年度1.5兆円ずつ、計3兆円) を導入したことは、強力な推進の土台となったと自負している。東京の更なる活性化に向けて、全力で汗をかいていく所存である。



## 拉致問題解決 今必要な3点！

- (1) 日朝平壤宣言とストックホルム合意の破棄：これをしなければ日本国民の拉致問題に対する本気の怒りが北朝鮮に伝わらない。
- (2) 日本の拉致対策の担当を警察庁の拉致対策本部に一元化し、その上で担当大臣は他の省庁担当との兼務でなく拉致専任で専念させる。また、海外の情報機関も活用する。
- (3) 北側に対しては、どのレベルの一定の進展で人道支援が得られるか指標を示す。北朝鮮が暴走している非常に難しい現状ではあるが、以上をやり抜くことが必須である。



横田滋・早紀江藤の夫妻と「水爆実験と拉致問題」について まつばら仁のジンジンNetで収録 (平成29年9月6日・横田滋ご自宅前にて)

## 脱原発。エネルギー革命 離島資源を活かす

原発ゼロに向けたアクションプランを策定。既存のエネルギー政策を抜本的に見直し、我が国の誇る自然と技術力で日本発のエネルギー革命を起こす。

首都直下型地震に備え、木造住宅密集地域の解消を図り、ハード・ソフト両面から多重防御を進める。

鳥しよ部の自然や海洋資源を活用。離島の妊婦健診、出産の支援、介護サービス確保を図る。

羽田空港問題に対し住民目線で安全性や環境影響などを再検討する。

ペットの殺処分問題に、流通の段階から見直す。



## 子育て・介護・医療 すべての世代に安心を

子どもを産み育てやすい東京へ、待機児童解消に全力を尽くし。幼児期から大学までの教育費負担を軽減する。保育士や介護士など福祉人材の待遇を改善する。

介護ロボットの導入など福祉現場への先端技術の導入を図るとともに、認知症対策の強化や介護施設の拡充を図る。

障害や難病を抱えながらも生きがいをもって暮らせる地域環境を目指す。

## 政府主導で日本発 世界標準を！

日本発のグローバルスタンダードが無く日本の商品サービスが不利になる最大の理由は、日本のビジネスマン、技術者、学者といった専門家がグローバル標準策定の過程に満足に参加出来ていないことによる。政府がリーダーシップを取って日本発のグローバル・スタンダードを獲得するため戦うべきである！



## 選挙制度「一元化」で 創造的破壊！

30年に亘る私の政治歴でひしひしと感じる最大の問題点は、都道府県、市区町村などの地方自治体の選挙制度との「ねじれ」である。すなわち、国政が小選挙区で動くにもかかわらず、地方自治体の選挙区は依然中選挙区であるため、二つのうねりが共鳴して国を動かす大きな動きとならないのである。

私は、この際、国政と地方政治の統一した選挙制度を確立すべきものとする。これは、既存の区割、境界を破壊し、新たな創造を生み出すものである。

私は、この国政と地方自治の選挙区の境界の打破こそが、新たな大きい政治のうねりを作り出すものとする。



## まつばら仁 日々の活動

街頭活動や地域行事を通じた地域の皆様との絆が活動の原点です。

